

上越はつらつ元気塾 平成 25 年度の旅立ち

塾長 渡邊 隆

平成 24 年度は「ものづくりから生まれる上越の力」をテーマに活動してまいりました。5 月 29 日には上越ものづくり振興センター所長の澤海雄一さんにおいでいただき、プレゼミ「上越地域のものづくり」を開催し、明治以降の上越における産業史を振り返り、勤勉な労働者や高い技術力に支えられ企業が育っていったことが報告されました。

その中で、今からおよそ 100 年前に生まれたバテンレースを生産していた企業が上越にたくさんあったこと、そしてそこから発展し、現在、世界市場で活躍している企業が数多くあることを知りました。本年度はその代表的な 3 社、ホシノ工業様（7 月 30 日）、有沢製作所様（9 月 11 日）、ウエカツ工業様（10 月 9 日）からご協力をいただき、会員と市民の方々で見学会を行いました。

そして 10 月 23 日に「上越はつらつ元気塾」を開催し、「バテンレースから始まったものづくり」をテーマに有沢栄一さん（㈱有沢製作所特別顧問）からご講義をいただきました。有沢さんから、自分の会社の歴史をもとに、バテンレースから現在の近代技術にいたるまでのものづくりの歴史をしっかりと語っていただきました。

ひきつづき「郷土の伝統工芸から未来産業へ」というテーマでトークセッションを行いました。プレゼンターとして星野哲也さん（ホシノ工業）、小林清作さん（ウエカツ工業）と高島幸男さん（有沢製作所）に登場いただきました。

昨年度の元気塾からは、どの会社も飽くなき挑戦するエネルギーの強さの持ち主であることを学ぶことができました。困難は次の飛躍のためのきっかけであり、そこに発展の可能性があることを見事にみせてくれました。バテンレースから始まり、上越細幅織物の技術をもとに次の新技術につないでいく姿は鮮やかなものでした。伝統から生まれた技術の粋が世界に通ずる近代製品を生み出している上越の新しい顔を発見でき、そこに上越の元気の源があることを感じました。

さて、平成 25 年度は新しいテーマ「鉄道が生み出した上越の元気」を考えてみました。鉄道は物を運ぶもつとも基本的な機能をもっています。人を運び、財を運び、情報を運びます。その「運ぶ」は社会のインフラをつくる大切な機能です。

上越の「運ぶ」が、どうなっていたのでしょうか？上越地域の鉄道環境をさぐることにより、上越のもう一つの元気な顔をさぐり出してみようというのが平成 25 年度のテーマです。

今から 100 年ほどさかのぼる 1913 年には、青海と糸魚川間開通により北陸本線が全線開通となりました。さらに、その翌年 1914 年は頸城鉄道が開通した年でもあります。まさに、その約 100 年後が今年にあたります。また北陸新幹線開業も 2 年後に控えています。この時期に私たちのまわりの「鉄道ものがたり」に少し注目してみたいと思います。

どうか新年度の新しい旅立ちにご期待下さい。

上越はつらつ元気塾 プレゼミ

平成 25 年度テーマ「鉄道が生み出した上越の元気」

PROGRAM

17:40 開会

話題提供者紹介

上越はつらつ元気塾 理事(新潟県立看護大学 副理事長) 戸北 凱惟

プレゼミ 「くびき野縁旅鉄道の夜明け」

話題提供者／地域史研究者・元上越市史編纂専門員 杉田 幸治さん

【プロフィール】

新潟県立高田商業高校教諭を退職後、新潟県地名研究会顧問。安塚町史編纂委員、上越市史編纂専門員などを歴任。新人物文庫『新潟県謎解き散歩(共著)』(新人物往来社刊)が好評発売中。

謝辞・今年度事業に向けて

上越はつらつ元気塾塾長(新潟県立看護大学 理事長・学長) 渡邊 隆

18:30 閉会

○参加者数／49名

見学会

「事前視察」

見学会の事前視察として、コッペル号が公開される日に、くびき野レールパークを訪れ、コッペル号の乗車体験をしました。

○とき／平成 25 年 9 月 22 日(日)

○ところ／くびき野レールパーク

○参加者／理事 6 名

「見学会」

「頸城平野の穀倉地帯を走り続けた軽便鉄道を訪ねて」

今から 100 年前に頸城鉄道が開通しました。今年 100 周年を迎える頸城自動車さんのご協力により、軽便鉄道を訪ねる見学会を開催しました。

○とき／平成 25 年 10 月 15 日(火)午後 1 時 30 分～4 時

○コース／黒井駅～百間町～浦川原駅～黒井駅

○ガイド／小山隆一さん、堀井靖功さん(頸城自動車株式会社)

○参加者数／21 名



コース・内容



新黒井戸駅跡の碑



頸城鉄道線発祥之地の碑



蒸気機関車コッペル号

今から 100 年前に開通した頸城鉄道から、北陸新幹線開業を間近に控える今に至るまで、「運ぶ」をテーマに上越の元気を探りました。



上越はつらつ元気塾

平成 25 年度テーマ「鉄道が生み出した上越の元気」

と き 11 月 18 日(月) 午後 6 時～8 時 30 分

と ころ 上越教育大学 学校教育実践研究センター

PROGRAM

◆開会挨拶 特定非営利活動法人 上越はつらつ元気塾 塾長(新潟県立看護大学 理事長・学長) 渡邊 隆

18:10～ シーン1 塾講義 「軽便鉄道が運んだもの
— 創立 100 周年を迎えて—」
頸城自動車株式会社 代表取締役社長 **大竹 和夫** さん

19:05～ シーン2 トークセッション「『運ぶ』から考える上越の元気」
地域史研究家 **杉田 幸治** さん
NPO 法人くびきのお宝のこす会 会長 **下間 一久** さん
新幹線まちづくり推進上越広域連携会議 駅名等検討部会長
(上越教育大学 学長) **佐藤 芳徳** さん
コーディネーター：上越はつらつ元気塾 塾長 **渡邊 隆**

◆閉会挨拶 特定非営利活動法人 上越はつらつ元気塾 理事(新潟県立看護大学 副学長) 戸北 凱惟

○参加者数/60 名

市民塾まとめ

(まとめ：塾長 渡邊 隆)



今年も、多くの人たちからご参加をいただいた。塾は午後6時から始まった。

シーン1では塾講義「軽便鉄道が運んだもの—創立100周年を迎えて—」を、頸城自動車株式会社社長の大竹和夫さんからいただいた。大正3年10月に新黒井から下保倉間で軽便鉄道、頸城鉄道が開通し、これを運営する頸城鉄道株式会社は、はじめ「上越軽便鉄道株式会社」として申請したという。その当時すでに「上越」という名称が使われていたというのは何とも不思議な縁を感じる。頸城鉄道の列車は東頸城の人々を新黒井へ運び、北陸本線そして信越線に継いだのだ。その列車の中では“かつぎ屋のおばさん”が、ドカ弁をあけ食べていた。そんな風景がみられる頸城鉄道は、昭和20～21年には全盛期を迎えて年間90万人の人々が利用していた。やがてこの鉄道は次に出てきたバスという交通手段に変わっていった。そして地域の交通網はいっきに拡大、充実され、今では大切な交通手段となり、地域と共生している。大正から昭和の100年の間に変化していった。こうした交通インフラの源は山田辰治と大竹謙二の二人で始めた“鉄道ベンチャー”からであった。そんな話を大竹社長から伺えた。



続いてシーン2では、杉田幸治さん、下間一久さん、佐藤芳徳さんの3名の方に登場願った。杉田さんは頸城鉄道の思い出を語る。平行に走る二本のレールはどこまで続く、天まで続くのか？と子ども心にワクワクしたという。汽車を見るのが楽しみでよく見に行った。また、浦川原駅には出稼ぎに行く父親をよく見送った。この出稼ぎの収入は大変なもので1年分の米から得る収入を越すものだった。雪の季節に送り、春になると帰ってくるという家族のこよみ(暦)が繰り返された。東頸城に住む人々も新黒井へ働きに行くための重要な足だったという。

下間さんは、頸城鉄道が廃止になったとき買い取られていった神戸まで出向き、保存の良い6車両だけひきとり、現在、NPO法人くびきのお宝のこす会の会長として、頸城鉄道で活躍したコッペル号を含んで車両を保存し、今もレールパークで走らせている。これもマニアの人々の協力で行われているようだ。

これからやってくる北陸新幹線について、佐藤さんは、新幹線駅の駅名等検討部会などの経験を通して、これをチャンスに上越は新しい魅力ポイントをつくり、それをしっかり守り歴史をつくっていくことが必要だ。例えば宇都宮市だって今から10数年前には餃子は食べていたけど今のような大々的な宇都宮の名物としてキャンペーンをはるようなものではなかった。アイデアがあれば、新幹線を利用して産業をつくることは難しくない。そして人々を呼べるようになるという。

杉田さんからは、この機会に上越は外へ打って出るべきだ。と大きなイベントとして「港と鉄道」祭の開催、上越市議会が甲冑を着て“甲冑会議”をやるとか上越名産の“上越オリジナルカタログ”をつくり売り出すなどの現案が出てきた。

講義とトークセッションを通して感じたことは、それぞれに“ものづくり”と“歴史”があるということだ。山田・大竹氏の夢：「鉄道ベンチャー」の種子は花ひらき、東頸城の人々に希望を与え生活を変えた。その歴史を証明する遺産を下間さんのくびきのお宝のこす会がしっかりとレールパークで今に伝え、見事な連携プレーが行われている。

今から100年前、信越本線に北陸本線がつながったすぐ後に出来た軽便鉄道、頸城鉄道は上越の交通インフラの基礎を作り、私たちの街の将来を形作ってくれた。新幹線がやってくる今、ちょうど100年前の時に似ている。新幹線が上越の発展の種子、夢の扉となるだろう！そこから元気をもらいたい。

NPO PRESS NPO PRESS NPO PRESS

軽便鉄道を訪ねる見学会を開催

上越はつらつ元気塾



塾長の渡邊隆さん。「上越が育んだ歴史や文化を学びましょう」と話します

上越の歴史や文化、産業などを講座や見学会を通じて紹介している「上越はつらつ元気塾」。今年のテーマである「鉄道が生み出した上越の元気」に合わせ、10月15日に見学会「頸城平野の穀倉地帯を走り続けた軽便鉄道を訪ねて」を実施します。コースは頸城鉄道線が走って

上越の元気を伝えたい

いた新黒井駅から百間町、浦川原駅までの区間。頸城自動車のスタッフによるガイドで、蒸気機関車コッペル号(通常は非公開)や駅舎跡などを見学します。

今から100年前に開通した頸城鉄道線。1971年に廃止されるまで、地元の人々の交通手段として親しまれてきました。このイベントはかつてこの路線を運営していた頸城自動車

学技術史が共に充実した魅力ある街。私たちと一緒に学び、上越の元気を探りましょう」と渡邊さんは呼び掛けます。

の協力で実現したものです。頸城平野の物流、交通を担ってきた軽便鉄道について理解を深められる見学会です。
元気塾の塾長である渡邊隆さんは、これからも様々なテーマで上越の魅力を伝えたいと話します。「来年度は今年のテーマである『鉄道』を支えた、上越地域の『発電』について紹介する予定です。上越は文化史と科

頸城平野の穀倉地帯を走り続けた軽便鉄道を訪ねて
日時/10月15日 午後1時30分
〜4時

集合・解散場所/JR黒井駅南口(各自自家用車で集合、乗り合わせて見学)

定員/20名 参加費/無料
申込締切/10月9日(FAX、メールにて受付)

問合せ・申込先/NPO法人上越はつらつ元気塾 ☎025・521・2627 FAX025・520・4151

メール genki@echigo-joetsu.com

頸城鉄道の跡巡る

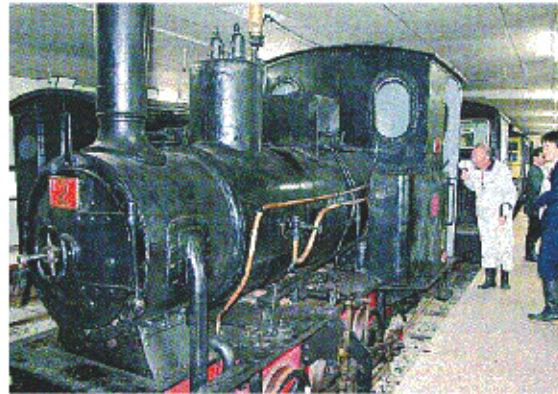
上越

軽便の名で親しまれた旧頸城鉄道の跡地を巡るツアーが15日、市内で開かれた。参加者は頸城鉄道を走ったコッペル号や線路跡を見学し、蒸気機関車の時代に思いをはせていた。写真。

市内のNPO法人「上越はつらつ元気塾」が主催し、メンバーら約20人が参加した。頸城鉄道は1914年に新黒井―下保倉間で開業し、71年に廃止された。

参加者はバスで頸城鉄道の線路があったルートに沿って移動した。頸城区石神の林の中には、鉄道

が水路を越えるために使われた橋が残る。会社員市村浩二さん(41)は「こういう機会がなければ、絶対に見ることがないものばかりだった」と興味深そうに話していた。



(新潟日報
平成 25 年 10 月 19 日掲載)

沿線住民、生活の支えに 今はなき頸城鉄道を学ぶ

通常総会

上越はつらつ元気塾 講演会

副「くびき野縁旅鉄道の夜明け」

講師 杉田 幸治



上越市のNPO法人・上越はつらつ元気塾(塾)

長・渡辺隆原立看護大学長はこのほど、市内の上越教育大学校教育実践研究センターで、「くびき野縁旅鉄道の夜明け」と題した講演会を開いた。市内の地域史研究家杉田幸治さん(80)が、軽便

の名で親しまれ、1971年に全線廃止された頸城鉄道(新黒井―蒲川原間)について、3日に講演。出稼ぎ労働者や物資輸送で沿線の生活を支えた歴史をひもといた。

杉田さんは14年に一部運行開始の鉄道建設に尽力した地主の山田辰治、大竹謙治兄弟について「先進的な時代感覚を持っていて」と推察。建設時期は関川水系の電源開発が進んだ時期と重なり、上越の産業の発展を見越していたのではないかと指摘した。

参加した上越市の会社員高橋優希さん(27)は「鉄道の歴史やその発展を支えた人を考える機会になってよかった」と話した。写真＝旧頸城鉄道について語る杉田幸治さん(上越市)

(新潟日報上越かわらばん 平成 25 年 6 月 11 日掲載)

鉄道生かし 産業振興を

上越イベント

上越市のNPO法人「上越はつらつ元気塾」が18日、同市西城町1の上越教育大学校教育実践研究センターで、鉄道とまちの発展に関する講義とトークイベントを開いた。2015年春開業の

北陸新幹線や旧頸城鉄道の遺産を生かした活性化策を論議した。

元気塾は、上越教育大と県立看護大が連携して10年に法人化した。本年度は「鉄道が生み出した上越の元気」をテーマに活動している。

講義では、頸城自動車の大竹和夫社長が、郵便鉄道として親しまれた旧頸城鉄道の歴史をひもとき、最盛期の1945、46年は年間90万人以上を運んだことを紹介した。

トークセッションで

は、渡辺隆・県立看護大学長がコーディネーターとなり、北陸新幹線への期待などを語り合った。

上越教育大の佐藤芳徳学長はアイデアがあれば、新幹線を利用して産業をつくることは難しくないと指摘。NPO法人「くびきのお玉のこす会」の中間一久会長は、頸城鉄道の車両を公開し、まちづくりに活用している活動を紹介した。地域史研究家の杉田幸治さんは新幹線を生かしたアイデアを提言した。

上越市の自営業、草間竜也さん(36)は「頸城鉄道と新幹線では時代背景が違うが、産業とどう結び付けるかの基本は同じかもしれない。考えさせられました」と話していた。

写真＝鉄道とまちの発展について考えた「上越はつらつ元気塾」(18日、上越市西城町1)



写真＝鉄道とまちの発展について考えた「上越はつらつ元気塾」(18日、上越市西城町1)

(新潟日報 平成25年11月20日掲載)